

別紙様式1		令和6年度 学校評価表			(中間・最終)			学校名 三原市立須波小学校			校番(7)			
a 学校教育目標		夢と志を抱き、自ら学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成			b 経営理念 ミッション・ビジョン			【ミッション】(自校の使命)○志を抱き、その実現に向けて考え、行動できる未来の創り手の育成 【ビジョン】(自校の将来像) ○児童の確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランスよく育成する学校 ○自己研鑽に励み、子供に寄り添い、チームワークを大切にする教職員 ○保護者・地域に信頼される学校 【育成をめざす資質・能力】 ○課題発見・解決能力 ○コミュニケーション能力 ○主体性 ○自己理解						
評価計画					自己評価					改善方策		I 学校関係者評価		
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	7月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方策	評価			コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	学び方の獲得と確かな学力の向上を図る。	(1) 基礎基本の定着を図る。	・「ファシリテーター力アンケート」において、目標値(平均70%)を達成した教職員の割合	80	85.7	107.1%	A	ファシリテーター力アンケートにおいて、目標値を達成した教職員の割合は、85.7%で目標を達成した。どの項目においても、4月に比べ、7月の方が肯定的な回答をした教員の人数が増加した。特に、「⑧全教科の授業の終わりにR80で振り返り、振り返りをシェアリングする時間を設けたか。」の質問では、4月と比べ7月では、33.9%上がっている。これらは、どの教員も教師のファシリテーター力7項目を意識しながら授業づくりを行った結果だと考える。	引き続き、教師のファシリテーター力7項目を意識した授業づくりや実践を進めていく。	5			・子ども達の授業参観では、前向きに主体的に学んでいる様でした。 ・教職員のファシリテーター力の成果が出ているように思います。 ・毎年、熱心に取り組まれている様子がよく伝わっています。	
			◎教職員の授業力向上(ファシリテーターとしての教師の役割) ・児童の「主体的な学び」を実現する授業づくり(必要感のある教材、思考力を深める発問、ICTの効果的な活用、振り返りの充実「R80」の実施)	低学年:90 中学年:85 高学年:80	低:91.8 中:81.7 高:86.2	低:102% 中:96% 高:107%	A B A	単元末テストの平均正答率は、低学年と高学年は目標を達成した。教科別に見ると、国語科では、6学年中5学年、算数科では、6学年中3学年が目標を達成している。国語科、算数科どちらも思考力・判断力・表現力に課題がある。国語科では、特に「聞く」ことの領域に課題が見られる。算数科では、単位の書き忘れや計算ミス等があり、見直す力に課題が見られる。	日々授業では、児童が主体的に学べるようにするために、児童のつまずきを予想し、具体的な手立てを考え、個の実態に応じた指導を目指す。また、ドリルタイムでの15分間を充実させるために、月曜日と木曜日は、漢字小テスト、読み上げ計算に取り組み、その他の曜日は、アシストシート等で前学年や現学年の復習に取り組む。その際、課題の見られた国語科の「聞く」ことの領域や算数科の見直す力を担任が意識し、丁寧に解説したり、指導したりしていく。さらに、管理職による個別指導も実施する等、学校全体で学力向上に取り組んでいく。	5		・先生方のご指導の成果を見ることが出来てうれしく思います。 ・複式学級の学習指導では、特にファシリテーター力が求められていると思います。児童に任せるための教材研究や準備をがんばってください。 ・細やかな取組が出来ていると思います。 ・先生方の授業がとてもすばらしかったです。 ・子ども達が、のびのびと生活していました。		
			◎繰り返し学習の改善・徹底による学力の向上 ・学力調査、学習環境の結果分析をもとにした取組の実践 ・家庭学習の改善・工夫	70								・「ファシリテーター力の向上」学びに取り組んでいる姿の中で、互いに伝え、認め合う姿や協力し合う姿に、先生方の指導の成果を見ることができました。		
		(2) 探究的学びの実現を図る。	◎「総合的な学習の時間」「生活科」等における探究的学びの充実 ・単元開発、カリキュラムマネジメントの実施 ・地域等の人材や地域の施設等の活用	100 70	100 91.6	100% 130%	A A	・児童が主体的・協働的に探究することができる単元開発及び単元構成の工夫、効果的なカリキュラム・マネジメントを実施した教職員の割合は、100%で目標を達成した。各担任が単元開発をする際に、他教科との関連を考えながら行っていることが、目標達成につながったと考える。 ・「地域や社会をよりよくするために何をすべきかを考えている」児童の割合は91.6%で目標値を上回った。地域との関わりを意識した単元開発を行っていることが目標達成につながったと考える。	・生活科や総合的な学習の時間を中心にカリキュラムマネジメントを作成し、探究的な学びの実現を目指す。 ・生活科や総合的な学習の時間を中心に地域について考えたり、関わったりする活動を仕組み、児童が地域や社会をよりよくするために何ができるか考えられる場を多く設定する。	5		・総合的な学習の時間の特性を生かした取組が行われています。		
豊かな心と元気な体	健やかな体と豊かな人間性を培う。	(1) 基本的生活習慣の確立を図る。	◎挨拶、清掃、靴揃え、机の整理・整頓の徹底	95	88.2 92.7	92.8% 97.5%	B B	・アンケートの肯定的な評価をする児童の割合は88.2%だった。清掃はどの学年も90%を超えていたが、その他は学年によってばらつきが見られた。本年度は他学年と掃除をする仕組みに変えたこともあって、高学年が低学年に教える場もでき、意欲的に掃除をすることができたのだと考えられる。教職員の肯定的な割合は97.5%で、どの項目も90%を超えていた。	・どの項目も90%に近い数値だったので、継続させていけるように、児童会の月目標に設定したり声かけを行ったりと、児童が意識して取り組むことができるようにしていく。 ・生活改善週間の取り組みが児童だけでは難しい場合には、保護者と連携するなどをし、少しでも行えるようにする。	5				
			◎生活習慣の改善を図る取組の実施	100	98	98%	B	・生活改善週間の取り組みを行った児童が98%であった。自分一人で行う取り組みが苦手な児童がいたようなので、別の手立てを考える必要がある。						
			◎豊かな読書活動の推進	75	74.6	99.4%	B	必読書の目標冊数を達成した児童の割合は、74.6%で目標値に0.6%届かなかった。今年度から、学校図書の電子化のための整理で必読書を含む学校の図書が読めない期間が約1か月あったことが原因と考えられる。	各学級で目標冊数を再度確認し、日々声掛けを行うとともに、月に1度を目安に担任が読んでいる冊数をチェックし、評価することで、必読書を読むことへの意欲を高めていく。	5		・清掃等工夫しながら、学年に関係なく、生活習慣の確立が出来ていると感じます。		
		(2) 道德教育の充実を図る。	◎主体的・探究的学びを行動につなげる道德教育の実施 ・考えを深める道德の授業づくり ・学びを行動につなげる道德教育の実践	85	86	101.2%	A	児童アンケート10項目の平均は目標値を超えたが、下回った項目が4項目あった。特に7「自分にはよいところがあると思う」の項目が昨年度より6.9%下がった。道德科の授業についてのアンケート5項目の平均は86.8%で、目標値を超えた。特に「自分のためになると思う」は90.9%と高い。しかし「自分の生活に生かしている」は81.9%にとどまっている。	2学期からの重点取組として、「自己肯定感を高める」「道德科を要としたカリキュラム・マネジメントを意識した取組」「道德科の授業のさらなる充実」の3点の取組を行う。すでに夏季休業中に研修を行い、周知した。特に「自己肯定感を高める」取組については、文科省の資料を参考に研修を行った。研修を生かした取組の工夫を行う。	5		・保護者啓発が取組のポイントになると思いました。 ・児童の心や感性を育てていくことは、とても難しいことです。多面的な指導ができていたと思いました。 ・朝、子ども達が大きな声であいさつをしてくれます。		
信頼される学校	保護者・地域の願いに応え信頼される学校づくりを推進する。	(3) 健康の保持・増進と体力の向上を図る。	◎体力づくりと食育の推進	85 90	87.0 84.8	102.4% 94.2%	A B	体を動かすのが楽しいと感じる児童の割合は102.4%の達成度であった。暑い時期に遊ぶことを制限されることがあったが、児童は動かせるときは動かすことを好んでいる傾向にある。 感謝しながら食べる達成度は94.2%と目標を下回った。低学年ほど肯定的な評価が低い傾向にある。まだまだ食育の積み上げが十分でなく、好き嫌いに大きく左右されやすい傾向にあるようである。	引き続き体育を中心に体を動かす楽しさが感じられるような取り組みを、体育朝会や休憩時間、児童会のレクなどとも連動させながら進めていく。 今後の食育指導や、給食指導、道德などの関連単元において、学習を積み上げ、肯定的で前向きな声かけを進めていく。	5				
			(1) 情報を公開し理解・信頼を高める。	◎保護者・学校関係者評価委員の客観的評価による改善 ◎地域貢献活動による、郷土愛の育成	90 100 95	88 89	98% 94%	B B	・保護者アンケートによる「各通信やホームページなどで、児童の頑張りが学校の様子が分かる」の肯定的評価は88%で目標値にわずかに届かなかった。通信に掲載する写真の見えにくさ、HPの掲載頻度の少なさ等が原因と考えられる。 ・6月12日に小中合同のクリーン活動を実施した。アンケートでは、「地域に貢献したい」と回答した児童が93%、「自分から積極的に参加できた」が85%で、目標値に届かなかった。昨年度の課題を踏まえて、今年度やり方を変えて実施したが、様々な課題が残った。	・児童の頑張りが学習活動の様子がよく分かる通信になるよう改善していく。また、HPに月1回は児童の様子を掲載できるよう、担当を決めて作成し、掲載頻度を増やしていく。 ・実施時期、時間帯、小中合同でする難しさ等、地域貢献活動としての意義を踏まえた上で、持続可能な活動内容になるよう工夫していく。	5		・小中合同の授業や交流をすることで、学習意欲も出て、メリハリのある学校生活が送れていると思います。 ・クリーン活動に地域の団体(例えば老人会)に参加を依頼してみてはどうか。 ・情報発信を積極的にされていると思います。 ・計画的・協働的に業務を遂行できた教職員の割合91%は、すごいことだと思います。	
			(2) 幼保・小・中連携の充実を図る。	◎こども園等・中学校との連携による系統的・組織的な教育の推進	100	100	100%	A	・1学期には、小中連携活動として、中学生全校による4・5・6年生への出前授業、小中合同グリーン活動、小中連携協議会(二部に分かれて)等を実施した。また、夏休み中に、小中合同研修会(SCによる)や、幼保小連携として、幸崎保育所への見学(2名)を実施した。	・2学期以降も中学校のブロック公開研究会への参加、小学校の教育研究会への中学校からの参加、中学校体育教諭による5・6年生への陸上教室の実施、幸崎保育所への2回目の見学等を計画している。これらの連携を充実させることにより、系統的・組織的な教育推進を行っていく。	5		・校長、教頭先生を中心に、教職員の方が一生懸命教育に取り組んでおられると思います。今後も地域を巻き込んで、信頼される学校づくりをお願いします。 ・目標を掲げ、目標達成に熱心に取り組まれていることが、理解できます。学校全体の雰囲気も落ち着きを増し、良くなってきていると思います。	
		(3) 「働き方改革」の推進を図る。	◎主体的に業務改善を図り、計画的・協働的な業務の遂行	80 90 90	91 89 81	114% 99% -	A B -	・計画的・協働的に業務を遂行できた教職員の割合は、91%だった。各部や分掌担当で進捗状況を確認しながら、優先順位をつけて業務にあたることで、スケジュール管理ができた。 ・45時間以内の業務遂行は、年度初めの繁忙期に4月5人、5月1人45時間を超過し、達成値は89%であった。 ・年休取得は、81%達成しており、計画的に取得できている。	・各部や分掌担当で、スケジュール管理表を確認しながら、見通しを持って業務にあたったり、児童と向き合う時間確保につなげる。 ・お互いの業務状況を意識しながら、協働的に業務が進められるよう、しっかりとコミュニケーションを図っていく。 ・教職員の健康や安全に互いに注意を払い、気になることがあれば報告し、早急に対応する。	5		・今年は画像での資料で地域との関わりにも熱心に取り組まれている様子がよく伝わりました。今までの取組を続けていって欲しいです。		
【j: 自己評価 評価】 A: 100≦(目標達成) C: 60≦(もう少し) < 80 【i: 学校関係者評価 評価】 B: 80≦(ほぼ達成) < 100 D: (できていない) < 60 イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: 分からない。														

【j:自己評価 評価】
A: 100≧(目標達成)
C: 60≦(もう少し) < 80
【I:学校関係者評価 評価】
B: 80≦(ほぼ達成) < 100
D: (できていない) < 60
イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: 分からない。